

岩手県金融経済概況（2019年9月）

1. 概況

県内経済は、生産面の一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかな回復基調を続けている。

最終需要の動きをみると、個人消費は天候要因等による振れがみられるものの底堅く推移している。公共投資は高水準ながらも減少している。住宅投資、設備投資は横ばい圏内の動きとなっている。

生産は、一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに持ち直している。

労働需給は、引き締まった状況が続いている。

消費者物価（除く生鮮食品）は、前年と同水準となった。

2. 最終需要

(1) 個人消費

個人消費は、天候要因等による振れがみられるものの底堅く推移している。

百貨店売上高（全店舗ベース；2019年8月）は、6ヵ月振りに前年を上回った（前年比+5.7%）。

スーパー売上高（全店舗ベース；2019年8月）は、2ヵ月振りに前年を上回った（前年比+2.2%）。

新車登録・届出台数（乗用車＜含む軽＞；2019年9月）は、3ヵ月連続で前年を上回った（前年比+11.2%）。

(2) 建設投資（公共投資、住宅投資、設備投資）

公共工事請負金額（2019年9月）は、2ヵ月連続で前年を下回った（前年比△0.5%）。

新設住宅着工戸数（2019年8月）は、2ヵ月連続で前年を下回った（前年比△9.8%）。

—— 持家（前年比△39.3%）は2ヵ月連続で前年を下回った。貸家（同△34.8%）は2ヵ月連続で前年を下回った。分譲（同5.0倍）は2ヵ月振りに前年を上回った。

民間設備投資（2019年9月短観ベース；2019年度計画）は、前年を僅かに下回る計画（前年比△0.5%）となっている。

—— 製造業は、一部に投資額を下方修正する先がみられたことなどから、前年を僅かに下回る計画（前年比△0.6%）となっている。非製造業では、一部に設備老朽化対応投資を追加する動きがみられたものの、全体では前年を僅かに下回る計画（同△0.3%）となっている。

県内の官民建設工事全体の出来高総計（2019年8月）は、6ヵ月連続で前年を下回った（前年比△9.9%）。

3. 生産動向

生産は、一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに持ち直している。

鉱工業生産指数（季節調整値；2019年7月）は、2ヵ月振りに前月を上回った（前月比+7.9%）。

—— 主要業種別にみると、輸送機械、はん用機械、金属製品が低下した一方、化学、生産用機械、プラスチック製品が上昇した。

なお、四半期の動きをみると、2019/4～6月は2期振りに前期比増となった（2018/7～9月：前期比△0.3%、10～12月：同+1.3%、2019/1～3月：同△7.1%、4～6月：同+2.3%）。

4. 雇用・所得動向

労働需給は、引き締まった状況が続いている。

有効求人倍率（季節調整値；2019年8月）は、1.39倍と3ヵ月振りに前月比上昇した（2013年5月以降76ヵ月連続で1.00倍以上で推移＜過去最長＞）。

雇用保険被保険者数（民間企業中心の全数調査；2019年8月）は、僅かながら前年を下回った（前年比△0.0%＜前年比マイナスとなったのは2012年2月以来＞）。

雇用者所得（県内合計値；2019年7月）は、名目賃金指数（前年比△2.7%）、常用雇用指数（同△1.9%）が前年を下回ったため、2ヵ月連続で前年を下回った（同△4.5%）。

5. 物価

消費者物価指数（除く生鮮食品；2019年9月）は、交通・通信、光熱・水道が下落した一方、家具・家事用品、諸雑費（理美容サービス、たばこ等）、住居（設備修繕・維持）が上昇したことから、全体では前年同月と同水準となった（前年比0.0%＜2016年12月以来の低い伸び＞）。

6. 企業倒産

企業倒産（2019年9月）は、4件、503百万円（前年同月；2件、376百万円）と、引き続き低水準となっている。

7. 金融面の動向

県内民間金融機関の預金・貸出（2019年8月）については、預金、貸出とも前年を上回った。貸出約定平均金利（2019年8月）は前月に比べて低下した。

以 上

本件に関する問い合わせ先：

日本銀行盛岡事務所 TEL：019-624-3622（代） <http://www3.boj.or.jp/morioka/>